

はい。皆さん。私、光本が
JICのワーホリプログラムが
更にパワーアップしちゃった
件について解説します！！



授業の内容と3つの特徴



ワーホリ専門
2時間



通常ESL
2時間



ワーホリ専門
2時間



ネイティブ英会話 追加通常グループクラス
2時間



ワーホリ専門
2時間



OJT・インターン・ボラン
ティア
8時間以上

1 ワーホリ専門クラスで 細かいニーズに対応

ワーホリ専門マンツーマンでは、渡航国別の情報や自己分析、レジュメ作成、面接練習といった個別に行ったほうが効率のいい学習を行う。グループクラスでは、仕事現場を想定したシュミレーションを行い、実践力を養っていく。

2 ネイティブ英会話クラスで 本場の英語に慣れよう

JICには、アメリカ人とイギリス人の講師がいる。ネイティブ英会話クラスでネイティブの発音や日常でよく使う表現・フレーズなどに慣れておくことで欧米件にワーホリに行った時もスムーズに環境に馴染む準備をすることができる。

3 OJTや課外活動など 実践アクティビティも充実

JICならOJTや課外活動のプログラムが用意されているので実際の現場で学んだ英語を使う機会が得られる。OJTには、バリスタOJT、観光省OJT、ボランティアの3つの種類があり期間に応じて自由に選択が可能だ。



バリスタOJTプログラム



実際にカフェでインターンをすることが可能。カフェアートの手法も学べるので欧米諸国でワーキングホリデーを行う前に実践的なトレーニングを積みたいという人にはとてもおすすめのプログラムだ。最低8時間の履修だが希望があればOJT期間の延長も可能だ。

必須履修時間：8時間以上

履修日：週末（主に土曜日）

履修場所：バギオにあるカフェ

証明書：発行可能



観光省OJTプログラム



バギオ観光省と共同で行うプロジェクト。観光省の事務所で書類作成をしたりイベントのお手伝いなどの業務を行うOJTが体験できる。また、希望があれば週末にバギオのツアーガイドとしての基礎知識を学べる研修を履修することも可能だ。

必須履修時間：8時間以上

履修日：平日 2時間

履修場所：バギオ観光省

証明書：発行可能



ボランティアプログラム



バギオにある養護学校でボランティアを行うプログラム。社会貢献活動ができるだけでなく、ローカルの子供たちとの触れ合いを通して国際交流ができる。欧米では、ボランティア経験を重視する企業も多いのでこの経験は役に立つはずだ。

必須履修時間：1日～

履修日：週末（学校が案内）

履修場所：バギオにある学校

証明書：発行可能

※入学前にどのOJTプログラムを履修するか事前に選んで頂きます。全てを履修することも可能です。

公式に証明書も発行される！

JICは、研修先であるカフェや観光省と公式な契約を結んでいる。そのため、証明書も発行することが可能だ。証明書の中には、あなたが何時間OJT研修を行ったかも記される。欧米諸国で仕事を探す際に、就労経験を証明するひとつの手段になるはずだ。ぜひ活用してほしい。

君の力を
証明しよう!!



4週間でどれくらい成長するのか？

ワーホリには英語力のみならずコミュニケーション能力や職務における実践力も非常に重要な様相になってくる。では、JICのワーキングホリデーコースではどれくらい成長できるのか疑問に思う方も多いだろう。

この章では、あなたが4週間のプログラム履修でどれくらい成長できるのかサンプルストーリーをご紹介します。未来の自分の姿を想像する助けになるはずだ。

なおこちらのサンプルプランでは、カフェでのバリスタOJTプログラムを履修する学生をモデルにしている。

**明確な目標が
励みになる!!**



1 week

まずは、自分を知らう！

第一週目は、自分のことを良く知ることから始まる。マンツーマン授業では、自己分析の仕方を学び、英語でしっかりと自己紹介ができる状態を作ると同時に空港やレストランで使える英語を学ぶ。グループクラスでは、空港入国時の対応や私生活で活用出来る英語などを学ぶ。週末は、ボランティアに参加してみよう。

2 week

渡航国について知らう！

第二週目は、渡航国に焦点を当てる。マンツーマンクラスでは、職業や働く地域の選択や銀行口座の開設方法などを学ぶ。グループクラスでは、マンツーマンで学んだことをフィードバックする。週末は、カフェでのOJTプログラム（前半4時間）に参加し、実際の職場で英語を使ってみよう。

3 week

仕事の種類や必要なスキルについて知らう！

第三週目は、より実践的な内容に入る。マンツーマンクラスでは仕事の探し方や実際の現場で使える英語を学ぶ。グループクラスでは、職場を想定したロールプレイングを入れ込み学んだ英語を実際に使う練習をする。オンラインで仕事を探しも行う。週末は、カフェでのOJTプログラム（後半4時間）に参加し、さらに実践感覚を磨こう。

4 week

仕事の種類や必要なスキルについて知らう！

第四週目は、いよいよ最終段階に突入だ。マンツーマンクラスでは、レジュメ作成の仕上げや面接の特訓を行う。グループクラスでは、ロールプレイングを重ね、クラスメートとの意見交換も行う。オンラインでアプライができる業種には実際に申し込んでみる。さあ、これで準備は整った！

おすすめのプラン

英語が全くできない学生がいきなりワーキングホリデーを履修するのは、レベル的に難しい部分がある。そこでこちらではワーキングホリデーを受講するにあたっておすすめのプランをご紹介します。

学んだ知識を効果的に活かし、ワーキングホリデーにいても苦労しない状態を作るためにもぜひ検討してほしいプランだ。

学習スタイルに
合わせて選ぼう!!



がっつり学びたいサキさんの場合

英語短期修行コース
4週間



ワーキングホリデー
準備コース

JICの超初級者用コースでがっつり基礎知識を詰め込んでから、ワーキングホリデー準備コースにチャレンジするプラン。英語力がほぼゼロで、平日外出禁止の環境でも頑張れるという方はこちらをお勧めする。



ゆったり学びたいアユミさんの場合

バランス重視コース
または
マンツーマン重視コース
4週間



ワーキングホリデー
準備コース

スピーキング力の向上に特化したバランス重視コース（もしくはマンツーマン重視コース）で英語に慣れてから、ワーキングホリデー対策に挑戦するプラン。強制自習や単語テストなどに縛られずに自分のペースで勉強したい方はこちらのプランが最適だ。

まとめ

いかがだろうか？

JICのワーキングホリデーESLコースなら欧米圏に行った時も自信をもって働けるほどの力が身に付くことをお分かり頂けたと思う。

英語とは、単なる学問ではない。コミュニケーションのツールである。どんなにITが発達しても、人と人との繋がりが絶えることはない。

ワーキングホリデー準備コースから得られるものは、実際の現場で使える英語力の習得である。

全く英語力も就労訓練もない状態でワーキングホリデーに赴き、つぶれていく学生は数多くいる。例えば現地に残ったとしても、日本人が多い日本食レストランやほとんど英語を伸ばすことができないファームでの就労に留まる人が大多数だろう。

あなたがワーキングホリデーから得たいものは、アルバイト代だろうか？もし違うなら、貴重な時間を無駄にしないためにもJICのワーキングホリデー準備コースでしっかりと準備を行うことをおすすめする。

